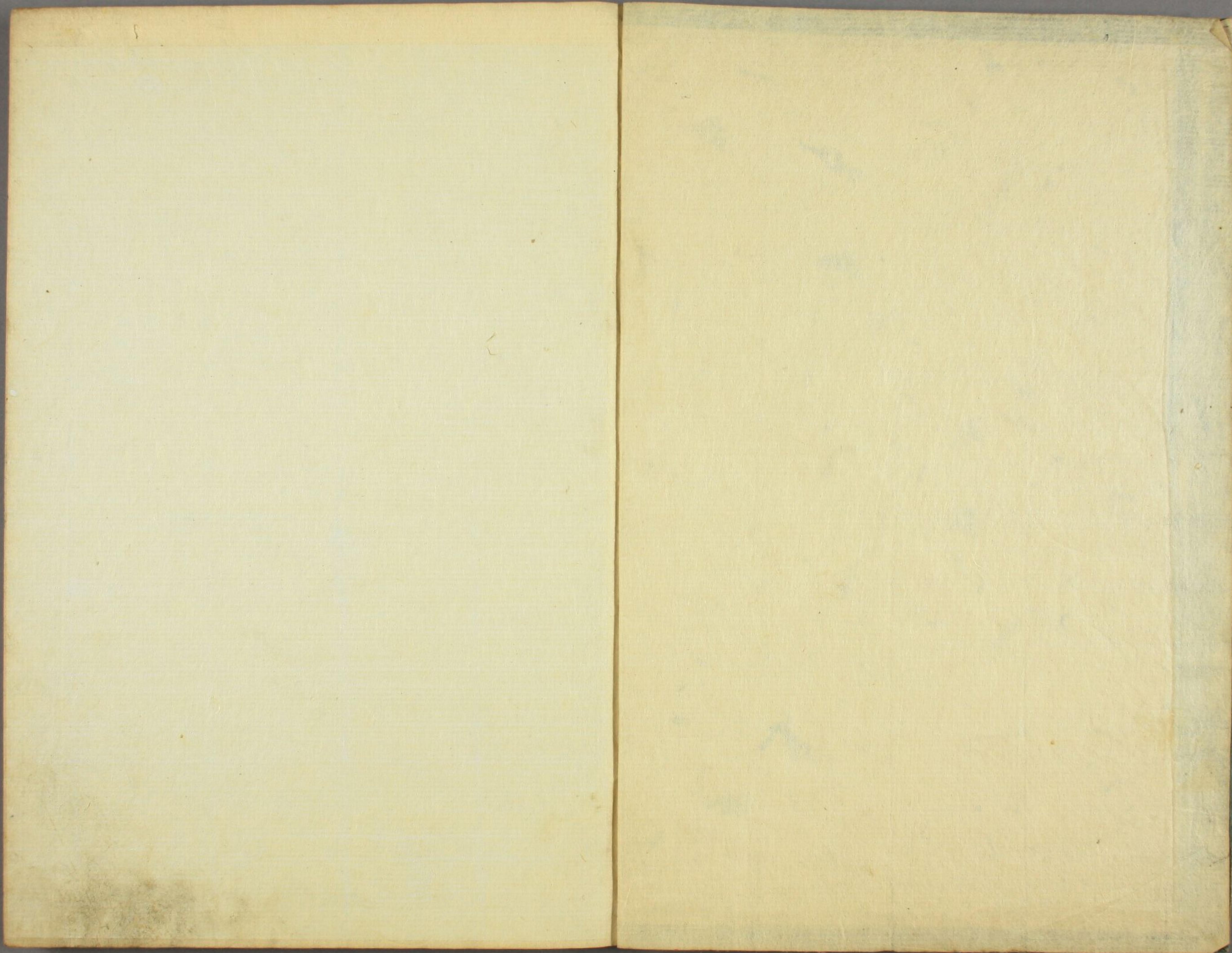




6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



士之稱才。如志不為。不為不為。而

漢曹大家。踵薄書於東家。

博學多才。古今傳焉。

本邦之不無。其人而崇武邦。

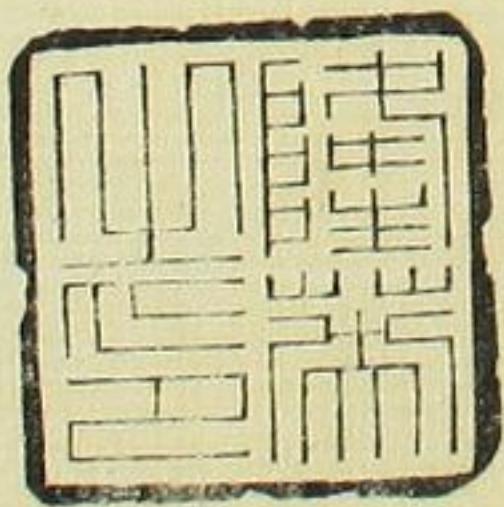
特有名。一所著。具記一集。文後附。

達<sup>ス</sup>亦可見<sup>ミ</sup>于一班<sup>ヲ</sup>。昔<sup>ノ</sup>升<sup>ス</sup>鶴<sup>ノ</sup>名<sup>。</sup>

高<sup>ク</sup>年<sup>々</sup>搜<sup>シ</sup>索<sup>ス</sup>。得<sup>シ</sup>善<sup>本</sup>。粗<sup>ニ</sup>讀<sup>フ</sup>志<sup>。</sup>

博<sup>ニ</sup>字<sup>ヲ</sup>難<sup>シ</sup>解<sup>フ</sup>者<sup>。</sup>標<sup>シ</sup>注<sup>フ</sup>考<sup>ス</sup>。校<sup>ス</sup>。  
止<sup>ム</sup>使<sup>ハ</sup>入<sup>ス</sup>易<sup>シ</sup>。乞<sup>フ</sup>余<sup>一</sup>悟<sup>。</sup>因<sup>ハ</sup>化<sup>ス</sup>。  
葉<sup>月</sup>以<sup>テ</sup>還<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>。

享保己酉之秋。旦藤原隆以英序。



紫女系譜

閑院左大臣冬嗣公第六子

内舍人正六位

良門

贈太政大臣正位

利基

從四位上右中將

兼輔

從三位號堤中納言

雅正

從五位下刑部少輔

歌人

爲賴

從四位下太皇天后宮亮

伊祐

從四位下讚岐守

歌人

賴成

從四位下因幡守  
實其平親王男

今按此日記云中勢のまつりて乃は事と涉るよりれど  
それこのいとせあらへとおりくまくかづるをひよ  
とハ此由緒成へ

爲時

正四位下越後守或作越前守

儒者 歌人

惟規

從五位下式部丞  
母常陸介爲信女

此日記云このうみ式部丞とひふ人のつゝはまと史記とひふ文

トスルノリトテ云

後拾遺集云父のりと小越後守ゆりけるよ

惟通 從五位下 安藝守

定遷 阿闍梨

女子 紫式部 母同惟規 嫁左衛門權佐宣孝

河海抄云鷹司殿從五位倫子官女也相繼而陪仕上東門院  
又云源氏一部の中に紫の上乃奉とぞくれてすゆる有り  
舊式部の名と行ふて紫式部と号せられたり  
今按此日記云左侍の替公仕われり此よりにあ紫や  
うすぬとうひね云是式部と指く若紫と稱せり

今梅宣孝卒の後上東門院よ仕する

父宣孝

女子 賢子 嫁太宰大貳高階成章因號大貳三位

後一條院御乳母

宋花物語殿上花刀卷云内のはめのと太貳三位云

父同上

女子 弁局 後冷泉院御乳母

宋花物語楚王の妾卷云万葉二年八月三日後冷泉院御誕生  
ひりてひ乳母といふて云大まの涼方の紫式部もすめ乃  
越後舟兼隆卿の子うそとすうつゝまくらげ云

此系式部日記傍註上

土御門殿在土  
御門南烏丸西

卷之三

五壇御修法者  
不勤降三世軍  
荼利大威德金  
剛夜叉等法也

轟  
馬 場 殿 遍 昭 寺  
は。往寺れ在主。もよひのふと。薦んぢれ僧都。  
文殿  
ぬどのかよふ。うらつまく。おやうえす。まてゆ。  
淨衣  
うり。やともとふ凡や。うちてわんれ。  
威德  
うり。さいさわうり。も大井と。とくやまひく。さ  
屈腰  
うりやうり。人こより。つまき。おもあき。うく。う  
戸くらのつねに。みつせ。がのうらう。う。が  
れ。身もも。おらぬ。み。夏。う。う。身。う。う。  
道長公  
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
御隨身  
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
橋  
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
即花美  
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

おくる。丁度、うとうと。のぞきあたまへ。おのの  
最遅く。うしをひりふ。我のうみのうひうきはあれ  
とて、ハヨウさんとのおもむにあつてきこすり  
れりふりうね

身が、ゆくよびるにあらわしきゆくよび  
わふと、とてすりうりうり

温殿内、あやめうた事ふ。宰相のあとをあつてお作してゆる  
にあらう。又三位の君すれのつまうまくぬ  
経。やうのやうりい。いとれとれくくくみくみ  
うみ。へなうろもとからだのあられかど。

古今和歌集秋  
哥小野良材不  
知題か良花たほ  
うれいよやどり  
とあざくら  
れあやさん

折り

世のわくうあらくとて。おもすすいおふくと。  
人のわふとくゆりとくの、まれと。うつげみ  
ゑも。うちじけぬ極みく。お月の、ふとうじんとて。  
うちじめうねじそ。のううにほめうちれと。これ  
うちじゆりうか。かぐりよのううわりいゆ  
うもあり。うのわくハふくこまのすくぬきハ  
きすくも有ひいねうそ。うりあのうごのうけつ  
けり日。わくうあゆゆうと。ごどんのうあゆ  
うゆくくハ。けそくとくくとて。ともゆ  
のほくうれ水ゆくとせうと  
うみふのあらは寝ゆもくすみうと。のうもく

可笑

紫玉草用詞傳上

種房公卿補仕  
作經房下皆効

うらわもぬきと。あふむ  
菊錦アキシロ  
てはまもんのわにゆくまう  
わきりき。九日まへりと。と居れりの  
りあみて。されあり。さりみてひとと。おい  
のひすて。ひかりせつゝわ  
拭ハタハタ

菊の房やさすに袖ひれてをのわすに年代ゆゑん  
とて、うかくもんとすむやまふわきにうつてゆくす  
おひねとわれは。まうかきにうきや。もあう  
ひまくいりうれは。月お  
まとひきよ。ものすゑはとけ。うひいつよとく。  
裳  
綻  
端  
火取  
中宮ノ事中

御物怪ト或御  
産時或御童病  
時富物怪問之  
義也立物如是房  
毫号物付是也

あ起アキ  
物モノ 怪モロコシ 駆スル 移ムカシ  
かうかくさりのアラシ。月ツキのアラシ。  
つみうちのアラシとアラシはもいと。ゆくと  
と尋く。まんまとよみがいのアラシ。  
三ミの佛ボケもアラシ。とアラシ。  
とて。せよアラシ。わづて。やアラシ。の作。  
使アシテ まねアラシ。とアラシ。  
はひアラシ。お房アラシ。とアラシ。  
すて。お房アラシ。とアラシ。めには  
物モノ 怪モロコシ 屏カーテン 風カク 雙ツイン  
けつアラシ。人アラシ。ひアラシ。ひアラシ。  
ひアラシ。からアラシ。木丁キモウ。とアラシ。御誦經モロコシ  
局ヨウ。验アラシ。者アラシ。

くのもうやう。まかにハ廻アラシ。とアラシ。傍アラシ。僧都  
きりうる。不動アラシ 尊アラシ。尊アラシ。  
もひてり。つアラシ。のたアラシ。とアラシ。  
れよアラシ。に。いと。狭アラシ。  
と山アラシ。の。いと。狭アラシ。身退アラシ。  
かまれアラシ。いと。身退アラシ。退アラシ。  
りと。のそら。やねや。いと。身退アラシ。退アラシ。  
ゆく。から。れど。ものすう。の神アラシ。人アラシ。  
あく。うまれと。かぢ。ひ。あひて。ひ。ゆふ。十一日  
ぬつまふ。の山アラシ。二戸アラシ。あらて。ば。庄アラシ。  
うつ。勢アラシ。足アラシ。とえ。き。わ。ね。白木アラシ。木丁キモウ

法勢書院僧都御  
かよひてありまと。傍にまくら。そり川  
まくじ。もうげまとまくじてかおアソビ。ソん源もく  
まくセシ。ひが書よ。いみきあくもかまく  
て。よみをつをつ。よの糸のわくよたうとだの  
りけぢりとかまく。あうらそく佛神  
しまくまくやまのめのり。あうらそく  
あく。いさく。今あくとえ  
あくと。せき  
やまく。人間  
開  
敢  
身  
得  
出  
くらあく。ひくもくらんとて。あきこあわきて。みり  
うめかねて。まつこくらう。の二まれりとに

又只内侍とは是  
掌侍<sup>オシモツ</sup>  
工官の判官<sup>オウカン</sup>  
下皆傍之

のりのとふと。ソーソーソーソー。御<sup>マサニ</sup>張<sup>タナヒ</sup>後<sup>アフタ</sup>  
ほそらうと。えんもとくはらと。りらうと。身<sup>シム</sup>退<sup>タラ</sup>  
ひ。あいわくも尺りくもどめと云。宰お中ね<sup>ミタラハル</sup>兼<sup>カミ</sup>隆<sup>タカラ</sup>卿<sup>キョウ</sup>  
四位のやね<sup>ヤニミ</sup>通<sup>スル</sup>源雅<sup>ヨシマサ</sup>  
源房 中官 齊信卿  
まの大丈<sup>オトコ</sup>かと。まのけとばと人<sup>ヒト</sup>と。木丁<sup>キド</sup>の  
くみよりまわせハのびたつ。まきうつめとまもとひるゆり  
まくらのまくらとすれう。ひよだよハラシマシとお代  
やうにうりかう。押<sup>ハタハタ</sup>周<sup>スル</sup>頭<sup>タケ</sup>  
うきんとのらにそわ<sup>ハタハタ</sup>と。ぱりくまきのひく  
ひくまくはいじとうけとせまりがやと。それ  
まくひうう代<sup>ハタハタ</sup>よ。とハツヤリとくとくとく  
まくら

御誕生ノ一九月十一日

御<sup>マサニ</sup>平<sup>ヒラ</sup>  
やく。さくらひきらきらのあはれぬ<sup>ハラハラ</sup>。かくはん高<sup>タカ</sup>捕<sup>ハタハタ</sup>  
かとまで。さらうかくはんはく。ひひとうとくみ  
てゆうとく。ひんうとくでかくはんはく度<sup>タカ</sup>上<sup>ヒタカ</sup>よ<sup>カク</sup>う  
さくらひいて。こやねのあはれ。たなけねの見わせ<sup>タカ</sup>て。  
あくし<sup>アクシ</sup>假<sup>ハタハタ</sup>撫<sup>ハタハタ</sup>頼定<sup>ハタハタ</sup>卿<sup>ハタハタ</sup>  
すううううのあはれがまめう。こくまでわづみ  
にうかづくあづくらは。すくられ渡<sup>ハタハタ</sup>とくろく  
ぬまきとあられて。わくあくうまくかんかくまく。  
寧<sup>アシカ</sup>ちのあはれなかくう。おとすあかくうを。いと  
めつにゆく。まくらひくまくら。まくら

さつまみへ人のふわりとあわのうかへよおへう  
かんかと。せまねがはやと。ひめ、すまれ  
神姫  
心 謹 時平公曾孫  
まんあんよわうり。と清く法人まんそと  
右近くうじんくまん。やうちまんのまん。そと  
つるよ。ちくまん。ちくまん。阿闍梨  
いふくまん。ひうれして。くまん  
ゆうりと。くまん。やうどまん。ゆう  
のうすまん。うび。ゆうけのまん。ゆう  
き。寧相なむかのまん。置まん。よもいまんとおこころよ。家一よ  
のうめうて。よもよもとけり。ほのをうつ

と。身をひいてうへんくわす。うへでさはれど。  
もまたうへんくわされて。あさ日下ゆづの比と。  
たゞふねど。まこと。うへてくひもうれす。  
平 嬉  
男子御誕生  
かとくへきくわく。  
朦  
かん。ゆきよらかに。いきはきのみ  
脅られつゝか房をと。またあられつゝやまと。  
老  
まよはうじらゆひうへ。ゆきゆけはま  
しにうぬ。夜もうへをわかさにこま  
せひ。ゆきゆけはま  
御修法  
讀  
経  
月うちもどりう。ごくうやうりゆ  
多うあくううつひう。うれか房をひく。  
僧  
布施  
醫  
師  
かんやうひ。うれく  
張  
陽  
師

卷之三

橘三位

卷之三

のくあひう下。あらそだう、うみて。白  
あひわけもくちたひかと。まかまち見おかひ  
おりれくらうし。あれまうひのれをわあひ  
きくわみまのめにまつり。御厨子  
播磨清子。まくらの食  
ちくあはくしてうめけ。女房二人。大木エ。古馬  
くまこくして。ひやに十ちよわい。木もさり。うどりの  
うれんかくれ色。笄子  
ゆいーう。ひらつこくして。わくくわん。ひゆ  
あひな相のえ。ひむく。ゆ太納。源遍子。湯  
すくとものきいか。ひ。ぬとくわく。けり  
家ハ歎ひをりて。ひく。こ少将のえ。虎  
道長公

益人并廢原廣葉

高

欄

五帝本記黃帝職

一國人也。し。づうち。サ人も位すく。十人へ。

うふ。まよ。づら。ウ。ア。モ。ト。モ。フ。う。見。わ。カ。づ。み。の

う。あ。う。ア。モ。ト。モ。ト。モ。フ。う。見。わ。カ。づ。み。の

此卷三言曰言行言

うとひのやと。おうしもじのハおうと  
見うるアノ人の花をひどきのまにそ。  
ゆふる。もくもあねのわづりのとハ。うる  
うにて神うちよ。とくうちよ。うめひめ  
あめひめ。はくせで。くわくわうめ。  
かうてあやのり。すまえ。わくとものうあかくは。  
うやうきくらば。月のめに。はるくらば。  
うつ。うくとそこもと。尺くらば。それと。がみと  
うりうやうかり。三日に。うめに。弱む。あはまづきの  
大丈。うりうめ。はるくらば。あいに。うますつ  
左傍つのかいひ。おきの事。ちんのうけもん。あめよ  
同上人 沉 懸  
卿 産 養  
齊信

の山々を。くうへえへ源けぬて。夜寧相  
衣 祢 裳 行成卿  
ゆそひしりも。ふもとのかへて。づきかひ  
色 覆 滋 立  
つこわゆい。ちくらぬき。おひるのよ  
下 机  
まち。さあれとす。おぬ人のあらへ  
つる。わくまく。たぬき。たまの  
りやはくまん。あんじれたひのふ  
ひう。ハ上達アの店。小どくもれて。二行  
きう。ハ。上人ノの店。ハ。び上り。まちあ  
の山ひや。ぬまとりやのまことに。うて。ご  
きて。ウ。め。自。あ。ハ。と。み。ゆ。ぬ。ゆ。あ。ひ。  
十。あ。日。月。く。り。わ。か。わ。く。ま。に。此。の。ま。く。え

御衣筥塗銀泥  
其上付銀洲演  
同鶴龜小松折  
立用龜甲自織  
物下机花足面  
押龜甲織物以  
銀泥塗之付貝  
小鳥駒足案二  
脚同以銀泥塗  
乏皆有白銅金  
物四角付百組  
總同面敷白太  
文薄物右下繪  
以白糸繡小鳥  
等筥一合納織  
物御衣一襲重  
萎文重薄物一  
合納綾御衣一  
襲三重萎文重  
一合納綾襪一  
二帖平縉御襪  
祫一帖各二幅  
袴入一合色目

同前已上 各異表  
白織物、裏組、看秋  
案一、脚置二、合  
各有輕薄物、單  
三幅長一丈三  
尺以白絲繡小  
鳥折枝等帶工  
筋長一丈參寸  
習受領各一人  
令調進花飴之  
美敢非俗眼所  
及之記定例也  
御產部類

ちう。かく火とと本のまにそりつ。ど也 食  
きともとてゆく。わすこも月のせぬへつ  
わくくきにともとまて。おゆこもゆく。ひる  
さのりう。うちきくすみひも。とくうじゆひる  
せやうすたむ。ううこれくれ本のりくよむ  
えやうすたむ。ううこれくれ本のりくよむ  
主 殿 立 渡  
さのりう。うちきくすみひも。とくうじゆひる  
えやうすたむ。ううこれくれ本のりくよむ  
群 自 添 隨 身  
うちしれてとる。上連アリすいきんかくやうのみ  
とくう。まのうあくからりつてゆく。うらせゆは  
えのひてふりまく。事代。まよいつ  
ありひーも。まくひやう。そぞろようちあ  
うちしけりや。増 稍  
うちしけりや。増 稍  
のうとめしわくね。め位ともせよ。そとくと

かくうむうちくめあ。りちうひのそりけあ  
うゆて。ざなよわいにすり。れのまよとて。  
女房八人ひと内あにうきにて。かくめすあうき  
本 結 盤 辨  
りともひーて。あくさくらんりてつむまつあ  
のひまうあひ。まの内は。うとひの  
やうたひ。がくめひとへに。うみのうりハ。づ  
もうもあくまく。うきみて。うきみて。うきみて  
うきみて。とくとくにゆり。うか。みわけ  
う女房ハ

様式部 カノウミ 小左衛門 うひちうのう 小左衛門 おひちうのう 大夫  
大浦 伊勢のうひとめ 大浦 おひちうのう 小左衛門 おひちうのう 大夫  
大浦 さけう 路 大浦 おひちうのう 小左衛門 おひちうのう 小左衛門 おひちうのう 大夫  
大浦 さけう 路 大浦 おひちうのう 小左衛門 おひちうのう 小左衛門 おひちうのう 大夫  
大浦 さけう 路 大浦 おひちうのう 小左衛門 おひちうのう 小左衛門 おひちうのう 大夫

小弓部益人きりら 小本ユのせう半のひす と  
さうさとれきわ人のううよて。下しひつ  
かううありへ。ハシトシムヒトシウ。まきい、  
わのまうとて、みわる。ハソモト。うめお  
わのまうとて、みわる。ハソモト。うめお  
とそ。テウムテミムとえ。努アシナ ト。レバ。下  
スル。こうれアリ ト。ウタ。マモテモタ。モタ。下  
のひんアリ ト。ニモツアリ。サヨハルアリ。  
人々のまつり。ガハナリ。ツミのゆりのは  
うめともまつ。下くらのした。ゆめ。モタ。そのは。  
ちやうぬうう。又。もも。た。あて。白。まつ  
一もひよゆつす。下くらまよ月のくぬが

に来 めもひうごく。めりもみのり。んりの  
女官。やもあくねあり。ふとづきかくやう去  
りのりやわん。わゆ疎 司司  
寝寝 楚楚 替替  
つ。やくわせん。わは。やまく。一。下  
あんてんのきん。一。廊渡 殿殿  
あすもすく。二。みくわれ。人ともえとゆ  
か。く。れのまつもと。女房女房 とれりよつて  
わう。火影火影  
式部 御御 許許  
あくせあり。れ。裳モ あ。下。小。塙塙  
とねり。下。底底 あ。下。底。奥奥  
みのめ。よ。せん。だ。の。食。ね。ハ。下。あ。る

てもかねど。りばちろひのていして、やくわゆふ。  
 わくうそとそりへつて。あらえんかくねのう  
 やとくし。并の内侍のをふちろひとくぬを  
 そそごとくぬめつゝ。ぬいものわねうそとくいと  
 りくそくゆうて。ふとくかくくし。ざねのゆくとも。  
 うれよれくらきちゆのを代。おとく  
 ほきあく。がわせおとくよ。あおきまけう  
 ぎりうとさりゆく人す。うの衣の四手のわ  
 うふの。ひとくよく身まわしがれへよるのもうな  
 うくぬ。ひやぬとゆわりて。あの世よハう  
 のそとじと。まくは見えぬうとひゆく。

源禮未記自元永  
 二年五月廿日三  
 夜立切燈草室  
 於座上置菖蒲座  
 「枚大進清隆  
 置筒墓於田座  
 上次殿上侍臣  
 兩三人參進置  
 紙自下鷹上達  
 鬱攤之興事六  
 部同置之次有  
 月二日丑夜亦同

ゆふうへくと。本そんとねどもてばくす  
 てそももひゆ。うらうちの座代うりてばく  
 のうすまづりき。殿とくめのそりて。揃うらゆ  
 紙のうそひとまづり。秋とむう。女房う  
 つまくわく。いへりてさかくくらく思ひ  
 うらうれ

ゆく  
 中公仕師  
 四条大納言にゆくそんや。うら代ハうるわふく  
 こひづひようひのへりと。らめだわくを育と  
 小と育くて。夜ひづひかけぬきはよや。さうりやさく  
 もうてきてきて。うくともうじくらめよハ女乃

紫玉韻言

起よ。月ひひくわいづやうざううちもあうとす  
す。かのぢんよく風がよきうとつはうへと  
きりきり者三位とくめきて。はは命令ぬ。若かね命令ぬ。  
しの命令ぬ。近命令ぬ。渠おの命令ぬ。近い命令ぬ。りと  
せせしゆ。くくわくらわ人。かれ。ひう  
ともはん。ものの人もまし入る。反い  
てかきておかると。もくにまくと。ありともす  
たれど。そちわよもちかくよ。七日。渠ハ  
おややけのひよ御。あひ差人。がね 道雅柳吉。とほほ。い  
まことのうとく。うとうとく。やまつともとにつけ  
うつわうさて返り。まよ。勸学院。戻とも。わゆ

勸學院者是  
淳和天皇天  
長二年冬嗣

紫式部言後言上

十七

大臣被申云  
之七辨之内  
一人補別當  
是謂南曹辨  
云

ヒワツニヨハキ林  
見河海抄。今按  
愛ヤカノ意欲  
事痛言痛云  
河海ニ多キ事ナリト  
見タリ。枕草紙ニ  
九月九日ハ晚方ヨリ  
雨少降テ菊露  
シラクガリト

事ともハ。一日のわう事。ソレトモちめれらくハシミ  
乃うちも。女<sup>アマ</sup><sub>アマ</sub>。あの<sup>アマ</sup><sub>アマ</sub>。衣<sup>アマ</sup><sub>アマ</sub>。  
殿上人<sup>アマ</sup>。頭<sup>アマ</sup>。とげ<sup>アマ</sup>。めで。よりつとく。身<sup>アマ</sup><sub>アマ</sub>の  
あくハ。大<sup>アマ</sup>袖<sup>アマ</sup>。被<sup>アマ</sup>腰<sup>アマ</sup>。乳<sup>アマ</sup>付<sup>アマ</sup>。毛<sup>アマ</sup>。乳<sup>アマ</sup>付<sup>アマ</sup>。  
わらやをさすり<sup>アマ</sup>。にじけをつまう<sup>アマ</sup>。  
細<sup>アマ</sup>橋<sup>アマ</sup>三<sup>アマ</sup>位<sup>アマ</sup>のと<sup>アマ</sup>り。わきいの女<sup>アマ</sup>。せう<sup>アマ</sup>よがりの  
りうか<sup>アマ</sup>。そ<sup>アマ</sup>て。もううれ衣<sup>アマ</sup>。そ<sup>アマ</sup>ばく<sup>アマ</sup>。こ<sup>アマ</sup>とも  
や<sup>アマ</sup>て。あかみや。又<sup>アマ</sup>け<sup>アマ</sup>こ<sup>アマ</sup>お<sup>アマ</sup>と<sup>アマ</sup>も  
ゆ<sup>アマ</sup>。く<sup>アマ</sup>く<sup>アマ</sup>ハ<sup>アマ</sup>。と。バ<sup>アマ</sup>。ロ<sup>アマ</sup>。こ<sup>アマ</sup>と<sup>アマ</sup>。  
そこか<sup>アマ</sup>。九<sup>アマ</sup>春<sup>アマ</sup>。春<sup>アマ</sup>。大<sup>アマ</sup>まつ<sup>アマ</sup>。と<sup>アマ</sup>。

云。栄花物語三年  
比ハ物思ニフトリ  
ニラムノオハシ  
ニシツルヲ此月比  
ナヤミ玉テ。ヤ、寺  
ホソリ玉ヘルト云  
云

いとすぬとよいまめ。白鳥の衣もこういぬ  
とましいて。ほうらいとさひのえれと。ひめ  
うすふおうくみ。うらわりてはまひ  
てまつにあめ。うらわれ。こもひ、あすて  
木形  
くらうめ本丁。きいのあまとへん。  
うらうめよすうり。めつ  
りのとうよすうり。めつ  
う。うれう。あねとしに。ばやく。くわく。なまめにて  
てふえう。まく人のすうもやうり。そ見え  
かれう。おアれわく。う人の。もちみゆく。お  
がり。十月十日まで。四丁生をねどみられ  
そくあお。おさみよく。うしもひうぬ。かの

かうととちり。れ幸ちくすりめとて。との  
うらとつよくつりみう勝候。せにてり。あき  
菊の詠とつるい。やりてアツ。ばらくつるい  
たまし。さりうが見そろわるも。あ  
たまし。めぐらすはあえぬ。かくらひ。きよ  
れつも志す。さねて。さうちす。がくや。き  
たまし。めぐらすは。は。  
退  
すまく。くもりて。あ。うやうて。ふもくせ。は  
をとく。て。ま。めでて。と。うり。うら。う。せ。は  
まくにつきて。あ。あ。ひか。を。う。く。く。のひく。  
のこつ。て。ま。う。お。く。く。の。あ。け。う。く。と。の  
強

まよひれり。いそてひアハあはわにすれ  
あうん。思ひもあ。ばくをぬくうか。おくそ  
はうちうきめて。あもととめりよとあけよら  
ゆく代みふ

かきとくのうとあそぶさん我をほうせます  
かきとくとふとやうてわきよとあれと。少しつと  
かきとくともひひそらう。小さねのあたが  
れさやう。ととくに。凶ぬのうとかきくせ。づひ  
といきく。えされう。えもうちうりてあんとて。づ  
れうるやうもあ。あんとて。づ  
もうういたかすめうこさん

かきつんとむねくに

おひなせをひのきひかるめどなむり神カミがくまむれ  
うの日あくべくはくわれ。よもじくせうあ  
てゆ徳トキを。まきうなげ。のひきううち。思ひやすき  
くわきやうくうり。行章エキザウハ内ナリのとさご。ま  
あづまくくへこすまくいふづひとかんづらの  
け庄ケヤウ。あーのまくすし。こまくはきいのやうにまが  
うものひ。門侍モントドリのうのちのほとに中シく人ヒト代  
きうきくすもい。うやのくのびとさう。⑥  
曉アサみ少將シマツヨウの志アツツジアラ。わともにからきつ

うと。きいのさよと。日たけしんと。下アシふと  
ハ。まのたて。わきのと。あがく。そと。まくと  
ひひづ。りでこさんとまくわす。小。け。みのと。我  
えきつきて。ひきにまくわぬり。お。う。し。う。ま  
の。まく。あれ。社マツ。お。く。わ。く。わ。く。お。く。わ。く。  
け。う。か。う。ぬ。ま。が。ま。と。く。り。た。ま。ま  
ら。ひ。も。身。乃。や。と。か。ま。う。う。に。い。と。や。と。け。か。う.  
う。ひ。性。の。あ。り。て。に。か。ま。と。あ。つ。ひ。て。ぶ。ま  
の。ま。く。一。は。ま。ん。の。ま。ふ。ほ。い。と。そ。そ。す。れ。り  
一。る。ア。そ。く。じ。ん。一。み。の。れ。す。う。い。よ。お。ふ。こ。ま

はまふとすばりけたゞ。女房のかづ。あのりら  
りとむ。すれどもアリカタ。門は二人。内  
その日れみのけうつ。こすとからとおとが  
うとうやうなり。ちあとのきーね  
うのしのんのくわ。すとれも。ひきくへいと  
ゆせんきうと。うんともめ。うくとハラの  
浮線綾 濃 裳注上裙 带瀟  
重皆 練 檻 綾 表著 菊  
紺 用替用繕是位

領巾延喜縫殿  
寮式中宮春季  
篇云領巾四條  
料糸三尺六寸  
九條別  
裙帶北山抄  
女禮服其裙帶  
紫綠半合加帳  
紀兩端繡形不  
驗也

ふくうーうみくう。あよさうくめであの  
ゆうてうと。あひきかわらざん。ゆめれやうに  
あよひのうりやとよき。しーめよくとよき  
よとめこのすくも。かくやあくさんとよておや。を東  
つる。いとつる。な中ねじも。とよてひうれ  
やく。やとよく。がくやあくさんとよておや。を東  
門侍よけよ。すの中ねじも。とよてひうれ  
人よ。よのあひの。あひの。かくよよだら  
の素。うつまへ。うつまへ。とよてひうれ  
ひうの中ねそ。えひもとよてひ。うらまのとよ  
うれうれたり。うらとよてひうれ。うらまのとよ  
濃薄葉 右馬蒲萄表著

あくまきのくらうれあきうすとんづ。  
 うあはを菊と。うハニへすとふくり。わや  
 うめがのれとあくへばしのあはき。  
 あすくうかみあくへて。うひとくもあやぢ。  
 大海裳  
 菊腰組  
 えれ三へめへゆくかくわき。うじに人ハ菊のみ  
 のう衣とくにあす。うハ白くわはさう  
 とすく。一へあはをむう。うすくつう。けぎ  
 くあきすつう。中に向きまゆすとすべてあは  
 たうのとくとくあおいひらへせめつ

眞航源氏蒂木  
河海云万葉子不  
叶かぬとハ  
うりうめ

くれ愧  
 わくね眞航注  
 まき。うれはくつてつうひきく。れ劣  
 あそたる。女心のれ伯  
 うめれ盛  
 ううき事  
 うううう。うへあうううかみのうい  
 つ。あやく人のうへとあくへくもく  
 みううとからうなうあくめ。うへううの女房。  
 あうけてううめ。ふくまううひきうめ。

あつ。二人令ぬかり。にまうきひのへひと。れり  
まづくとて。らくせん。方まのれののかとあげて。口は  
のつてつづす。それもくわかくまうりつ。こきはまく  
天女すり。たまハあとつらよ。やあ、そのじりんのうえ。  
ちくせんハ氣れめのうえ。ま、まのすりまちう。  
いまうかひ。柏三位。あびつらのうまわ。わやひ  
もみう菊のうちくうそ。うつまかんめれ。一叶とあやうう。  
おあてまへよせて。ちくせん。モクセん  
やと。うとうきゆめん。いとふと。年。寧相れ矣。  
ひくとてまつりだす。りやのけとよめに

このうちかくにそりまへひつせよ。  
上外  
つまえをひてそ。寧わの志ハシムヒテ  
最顯證  
ひけそにひたすらひづくふも  
うらみておほつる。自らはふがけたり。衣  
乃ゑもんよりきふ。ともや  
かどりや。上連アおまようひ  
り。万さいらぐ。太平樂賀殿  
慶チ退  
まいと。ゆて事せり。わきひて。とのそんのそらと  
まよ。やくちくぢりゆまに。がくの音もひみ乃  
を松風も。あく吹あらぐ。ゆとり行。

して池の水をさしてしまつた。そのまゝに、の内  
あらめやうにさうした。おまけ金ぬのと、  
もしもうめくよ。ひとかわらきこえますば。人々の  
てよみぬ。うせんの金ぬは古院のねくらきこえ  
あくの行幸は。ひとひくわく。其あり  
みやうりとゆひとくすば。ゆくとあると有ね  
アサレ。とくとくとてあるかあくとく。ル丁  
角くわく。らむとくすりとくふりとく。人  
あく。うくはててめく。おけはあく  
まうてゆくわくろきに。づまけはとく  
とくえほ。右のゆく。万そらく。よよめひてす

柏 寒  
もじめくよ。ひとかわらきこえますば。人々の  
てよみぬ。うせんの金ぬは古院のねくらきこえ  
あくの行幸は。ひとひくわく。其あり

園 謙院

園 謙院

きくと。りてとくとくえほ。右のゆく  
万そくす秋やくわくとくよくとくあ。あくと  
大臣道長公  
かくいと。おくとくの行幸と。ひとめくわくと  
思ふ。まんくうけとくわくわくとくわくと  
おうくうくとくわくとくわくわくとくわくと  
ゆくとくとくわくとくわくわくとくわくと  
おて。右のれとく代にあくとくとくわくと  
ゆく。まくわくとくの家司。うくとくわくとく  
ひがくとくとくとくとくとくわくとくわくと  
えくとくとくとくとくとくわくとくわくとく

経ハテリタ。シテ別ニテにナリテ右湯<sup>當</sup>替<sup>御</sup>。大丈

也大丈よ。えれとけり。一す。は後寧おつまくの

人舞踏をえれ。ひこよし。おおて。種もすた。トキ

ソテウあり。ね。ほ。う。と。の。あ。れ。そ。の。あ。を。お。

ス。の。あ。う。と。月。の。は。つ。ひ。あ。き。と。う。も。れ。ね。ト。ア

ス。の。あ。う。と。月。の。は。つ。ひ。あ。き。と。う。も。れ。ね。ト。ア

ソル。うちやす。すく。て。み。と。あ。う。き。ト。ア

ソイ。め。て。そ。ひ。も。う。勞。活。あ。と。り。に。行。ま。れ。候。と。

又。の。日。え。れ。家。司。別。あ。わ。と。人。り。と。職。本。す。ま。り。

タ。う。ひ。と。も。う。と。事。務。ミ。シ。ト。ら。は。り。む。う。れ。は。

室<sup>禮</sup>。寺<sup>禮</sup>。ら。い。き。く。な。い。や。つ。き。ト。う。一。代。あ。く。ま。り。て。

ひ。前。れ。あ。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。

催馬樂呂歌  
安名尊  
あふとく  
のよし  
のよし

ひきりともなり。我はひへきだ。大丈とひと  
りてもひき丁のあととくあらじよ。うれすよ  
よらうのうちめ。いたうこわくものとあらめほ。きよ  
のたうとくあとひくおううふ。表つてうまく  
月とめ。かうーのりとうそけとせあらて  
いよくうて。ひよくうめのねりんむ。おとひふく  
かうくつづく。やさかうんと。ひ。狂あらぬやうに。  
あうくうむほくゆううれ。るふうあうしき  
ハシムと。ひうハ吉月のけいちらの日。きいの人々の  
きくと。ひうつひう。ひおのひう。ぬ絵よかうと。  
わあく身の下すと。ひうみあゆーひ丁のあ乃た

揭

月

別

淡

達

取

下

最

隔

子

取

下

最

隔

子

取

下

最

隔

子

取

下

最

隔

子

取

下

ゆれよ。御ル丁  
のくへりあむとくのくへり。おう  
にれまのわハアツカタ。あへりておけま  
れり。きのうんのれ。さあくしのたひりきん。  
そがこのことくみど。ひまうあい。寧相のあ。お。さとく。  
女房もさく。りあひく。わまればゆあひ  
大細のあ。あんうにひく。わまればゆあひ  
ひあひく。あひく。のまひう。ちふを  
あひひのく。あ。れりあんうのまひう。お  
え。すく。あまで。牛の内は。けつとの令ぬ。小中將  
のまひ。おひいきう。うそくつて。うつ。おくにぬて

くつりへとゆくへ。や、ひ小浦のゆどあゆう。  
巨  
あくへこゆうへんへん。まつたまゆう。丁れ  
うちゆうどのへんへん。まつひとゆめてよ。  
ひそをゆうへん。や、まゆはゆう。まつひとゆめてよ。  
火影  
あつちのかゆはゆそ。ちすはゆう。くまうを  
ゆうも。くまへけづくものいしよ。たまはえい  
ものめへりゆそ。すうのゆこうりきよれく。殿りらる  
ひまつゆくよ。くらめねねい。せきいの  
めにりてひり。ゆくよ。くわくたまひふれてのゆうよ。  
右大臣頭光内大臣公季  
蒲萄  
折 檻 箬物  
あくひつやこのやくと。くわくたまひふれてのゆうよ。うち

そりつきてまつゆう。かくらんよつきてとくよ  
たう。たらあへれ光のゆりとふきれは。は佐サ将  
火焰  
ケル代よひよめてあくくとくよめてくくみく。うち  
のゆいそん不よりてまつゆう。あすようへゆわ  
ゆくとてこくひよみゆのそとてとくくとくひつまの  
大丈啓  
大丈御簾のりくふうゆうて。よ連アおまくよめさん  
と音くよ。そくへんへんとあれと。くらうそとめ  
をうてとくふうゆう。けれりべーのゆうとれまく  
きて。ゆだり。女房ゆうとくつゆうされよ。う  
うすとくば。そのゆふあくとあぬゆうくくうりう  
卷上  
まきあけゆ。太納云は。宰相乃君。こかねの君。

まれ内袖とぬびて。右のねくつて。左手丁のけ

そろひをさだらみれほ、まくすくつて。左

あらふもくへ。あふきとぞうたつれしもの。け

りともかやう。大丈うづけくわうそをかたつて

せう。ものひくひてはあそひ。あくうりかんと

かく。かく。そのつまればのりんのくらりと

く。右大將よりて。衣のつゝ袖くらかく。右

さく。くらかく。おひのまぐれとわがつゝさん。

又たまつとくかとゆひゆて。うるあきとくとよ。

いもくまく。くまく。くまくもじよこうそむりとつめし。

あくまつせきんのくく代たわハドらばてときのま

實資卿

齊信卿

頭光公

央

雜礼

計無

傳

怖

巡

あくまつせきんのくく代たわハドらばてときのま

あくひのまくせ万代。あくまく。左あつ替あかく。こ

のまくにあし。うれやうれふこううひがふ。深氏

まくめくひとみ。おおふく。うれうへはほそいそ

まく。あくと。うれうへはほそいそ。三位のまくげうづけま

き。あく。うれうへはほそいそ。あく。大臣

權中納言。まみのまく。うらりとふくうてうながのまく。

ひくうひ。うあく。うれふく。うれふく。うれふく。うれふく。

うれふ。寧ねれあく。うれふ。うれふ。うれふ。うれふ。うれふ。

あく。うれふ。うれふ。うれふ。うれふ。うれふ。うれふ。うれふ。

さへうげきひかわらのうにかくれ  
とせりそめのあはてかうむらすもせひす。  
ワタリのうほくまつま。うるせうんと乃はく  
よつらふとくわうみ。きくはくこと

「あらかじめからわざわざおもひだせたみよ  
あさき門のまつわらもと二三ひづりすがえせむ  
ひとごとのおもむく

あくびのよひあれ、あくびのすまをまくさん  
さううらかひたすらもありげんきのあふれ  
ひとわくしよとうかうけふくりてこま  
はよとがくのうとうはううめいし。ばむか  
醉  
飾

子もかこられと。うちほやさがとへくらひ  
うる。ひめはきあらうすりゆれと。へくら  
うらうらつてふのくらうねよ。たまうすにひく  
ほくろいとかもう勞役とあ。わけてハキイヒ  
らひて、あれをえりだりのて。ものかくら  
ともそく。せんくよぬえんくも。つひとも  
ちづめあしとやくめてあ。ふりを  
うら化うつを、たよれりきはせうめ  
せよね。うれうとやくとも。ゆてすよ  
きひつ。ひきうりと。りくまうせきうと。  
りくこのうて。りくもとじくひまいて。が

りとあいといといきじなしとかくべとすまかてひとは  
をうづつるにわうづれをともうにやうてかく  
とくすりとひあよわくやくよ。やうれりよてあく  
あらてみがない尚侍のうれぬりもくきてうづれを  
くうれくうれくうれくうれくうれくうれくうれく  
名はそうゆうきく。ワタミはひわうづくをさき  
せぬ。うちにもりとあくわり。めぬ。とくうくうく  
山のゆる水をうむれ日くよむくすりゆと見え  
り。せぬ。おえり。ちづる。ふの。おまの。うる  
ひ。ふく。うんとあよ。あく。あく。あく。あく。  
二日つうり。うく。も雪はゆるもの。みと。うもと。

かうとれおもとまゆをわじい  
きく。やへあつまにまわり  
花を乃とねども、秋はよすれき。月  
新あむとみく。その内ふたりとくらう思ひ日もつ。  
いふやふくう。ゆくす月のふはそきやうかく  
わ。もうあまわう。あくふつきて。うちかうぬ人。  
不ゆふりはあもしようかく。すまうすとせと  
たうとくらう。めてもひうと。たうとくらう  
饗饗  
よあへう。そくあとおほきくうるうえり  
せりゆくとくらう。うるうて  
まくいと。ひあかくはうかう。

さうのこせう。たりひへらへて死ぬまゝ。いふ  
やうすがうりてみまとも。だくやうにわからぬ。わく  
まくわきなう。人のかうひうも我  
とふふわく。ふあむたものと四へにとまどらんと  
きくはう。うしきいとまく  
やくへみくう。んとやううんハ。ふそくまく  
りもん。うううつゆれ。いきあうハ我のれ  
うちあり。愛とわぬ。うううんと、よどう  
て、いとあ、いふうしも。中もとあひまく。あうあ  
まく。あうもすくまく。うにうもく  
やうつ。まとあくもく人。かくまく  
音 信 勉 当

ゆふとふかきてゐぬせ。まづくらう。うにて  
しもうちぬたわあをきがりう。あえうにうち  
かうひ。とうもくろとあくよ。こもやうめわどひ  
うふ。うりうてあつしりひくとめぐり。すう  
繁 あくくゆきそめもくみや。大納言の義光もく  
ほまくおいたうかねひつ。わふうじゆく  
のひへ。うりばくふくみゆく、  
うれやー水のうのひくでかせうむよぞくの  
や

うううぬとがまうたぬひうそにあり  
かまうぬかと。ういとれううぬ。まぬかとれそく人うかと

みちや成はん。あだく。うゆそうち。成りん。  
いしきくあくまがはとくともうかう。このうく  
のゆせうそこハ。まううやく。あひかしも。や  
ううううそくまうて。うくまうんとわく。と  
そくとわて種うふめうとのぬせられ。あくま  
ゆくも。ゆくまゆく。あとあれ。うけ  
がくとアツね。うう努候。ハナセ日なり。いのこさ  
かとまつ草と。やうく表かま。みかう。うをつる  
うくすよ。ものかうにもうて。うく。りやのひん  
うきてひのひうに。うらはか房も十よ人。みか  
のひのひのひとアツくかう。ううよハまく

せんの。いとけのひ車よ。このへり少浦乃ちのや  
ワツアリテモトアのう。大納言。宰相のあらゆ  
ほくに。づきのくわよ。こがね。あれは。つまむひ  
の中ねとのう。とこもんとあくべとひくう  
一そ。あふあとくへと。ひとかくう。あひら  
うれひゆ。ありつけぬ後の方。年のはば。  
次よりのふい。このせん。もよとまでは。  
次第 さへきて。づきくべきのくもそのうち。月の  
くもあふい。それこそとおひつ。わーとそ  
う。じまたねのあとだよとてたれと。ゆゑも  
あくへたとくへとあうと。我うろとくろん

宣旨

あくへくも思ひあうれ。ほそみの三のくらよ入て  
ゆれ。こかねのあもれつ。あ。がくくわあうる  
あくへくはかくひつ。きくもくすらとく  
あくへくすらきくまで。あくへに大代え入  
あ。身もかくよくものへいたまくひつ。は後  
の室ねの室ね。せんの代ねを。ほくよ  
あくへく。あくへくとすくり。あくへくの  
とれこれそ。やあぐやとあくへく。あくへくの  
つうり。いわあ朝。たまゆりゆく。あくへく  
うく。身もくみてゆかとあくへく。あくへ  
れらんのくくういつ。あくへくとあくへく。

陣

強直

行成卿

源經房卿

公信

著

厚

肥

健

久取

あよへうれりと人そつて思つてうろ。うう身ア  
うせてハゆもたまのせありえ。こナガの未だ  
ハとてにむづけとて。うばうとて。うそそ  
ううと足ゆうびらくもううあくうううう。  
人のやくううハといふのあよねくとくをほづらん  
めうう。よのゆくうわ。けとぞこゆうよひらん  
うう。ううのそせううのぐとよ。ひはう見を  
うんうもが。てそこひともひ。うううみは  
あうこもか。ほくうすうゆうしやも右へ。後  
撰集拾遺抄そのぬともきみてううはうつ。あう  
テ時大弁宰相  
の中納云巡轉とあくううひとめよ。まうんと

草紙  
行成

ウテツノ身をア。角うーへ死ひもかか  
く。あこれうよひう。あよひのふりとだけ  
やうの。いめ僧延、転注、清原、澄、能宣元輔、  
う。あんじんとちうすみの志とかさうハうのま  
これへてまらうりてけいもせなへきみへらぬを  
のまにもうせぬりまめへうすぬとぢり

延轉俗姓是陽  
成源氏太納言  
清原卿孫而号  
上給公僧也

後附

寛弘五年

左大臣藤道一

右大臣藤顯光

內大臣藤公季

左大將

大納言藤道綱

傳

權大納言藤實資

右大將 按察

大納言藤懷忠

民部卿

權中納言藤齊信

中宮大夫別當右衛門督  
十月十六日正二位

中納言藤公任

皇天后宮大夫 左衛門督

權中納言藤隆家

權中納言源俊賢

治部卿中宮權大夫  
十月從二位

中納言藤時光

彈正尹

權中納言藤忠輔

兵部卿

參議藤有國

勘解由長官  
樞密權守

同 藤行成

左大辨 侍從  
皇天后宮權大夫

同 藤懷平

春官大夫左兵衛督  
伊豫權守

同 菅輔正

式部大輔  
八十五

同 藤兼隆

右近中將如元

同 藤正光

大藏卿

同 源經房

左近中將近江權守  
左大臣高明公四男

同 藤實成

右近中將侍從

前帥藤伊周

准大臣 紿封戶千戶

正三位藤賴通

春官權大夫

從三位藤兼定

右兵衛督

藏人頭左申辨藤通方

左近中將源賴定

藤賴親

少將 源重尹

藤兼綱

源忠經

藤賴憲

源公信

藤教通

源雅通

源濟政

藤道雅



